

府養研ニュース

平成18年9月7日発行
 大阪府養護教育研究会
 会長 河田 安男
 (藤井寺市立第三中学校)

10月号は
 10月2日発
 予定です。

ホームページもご覧ください。 <http://fuyouken.visithp.jp>

来年8月8日は府養研55周年記念大会 <http://fuyouken.visithp.jp/55/>

学校教育法の一部を改正する法律 http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/06040515.htm

問い合わせ・ご意見は、Mailで本部役員まで jimukyoku@fuyouken.visithp.jp
 件名に「府養研問合せ」など「府養研」を入れてください。

平成18年度 府養研役員総会 府養研の支部役員、本部役員の方、日程にご注意を。

第3回平成19年 1月11日(木) 午後3時～5時 アウィーナ大阪 3階 生駒の間

夏休みの府養研研修は好評にて終了しました。報告はテーマ別・教材実技

他団体から

1. 高槻自閉症児親の会それぞれの新しい出発記念講演会

2006年9月23日(土) 19:00～21:00 会場：たかつき京都ホテル2階 煌北

高槻市城西町4-39 (JR高槻駅西口下車約700m / 阪急高槻市駅下車約1km)

テーマ：発達障害 講師：石川憲彦さん(東大病院) 参加費：無料

主催：高槻自閉症児親の会それぞれの新しい出発記念講演会実行委員会 後援：高槻市・高槻市教育委員会他

2. エーブルネット社来日 AAC セミナー

“Everyone’s Classroom ～みんなの教室～” http://www.p-supply.co.jp/info/k06_aac.html

2006年9月23日(土) 10:30-16:45 大阪：パシフィックサプライ本社大ホール

大阪府大東市御領1-12-1

定員：各30名 参加費：VOCA付で25,000円(税込・昼食付)

(スーパートーカー/ステップバイステップウィズレベルのいずれかをご選択下さい)

VOCAなしだと4,000円(税込・昼食付)です。

いろいろ紹介

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/xoops/modules/tinyd0/>

ヒライポッターの日記 <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sakura/7762/>

こころリソースブック出版会 <http://kokoro-rb.jp/books/b-203.html>

コミック会話 <http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4750321206>

障害者のためのコミュニケーション支援 <http://alphatec.tea-nifty.com/eat/>

コミュニ
 ケーショ
 ン支援

テーマ別研修会の報告

今年は、約200名の参加を得て、研修部のテーマ別研修会が8月8日に八尾市のプリズムホールでもたれました。

第1分科会は、「障害児の医療的ケア」について、大阪教育大学名誉教授で医学博士の小西正三先生を迎えて、肢体不自由を中心に、様々な医療的な問題をかかえた子どもたちへの医療的ケアについて教えていただきました。お医者さんに聞くときのコツを教えてください、医療的ケアのとらえ方も時代と共に変わることも新しい発見でしたという感想が多数寄せられました。



第1分科会



第2分科会

第2分科会は、「発達支援のあり方とネットワーク作り」について、大阪市発達障害者支援センター所長の近藤伸爾先生の講演で、発達障害の子どもたちへの支援のあり方と適切な支援を得るためのネットワーク作りについてお話いただきました。実体験にもとづいたお話で具体的に楽しくきかせていただきましたという感想で、現場で生かせる内容が多々ありました。

第3分科会は、「発達障害児の指導・支援」について、大阪府健康福祉部の伊丹昌一先生の講演で、発達障害の子どもたちの理解と指導、支援に関する具体的な方法についてお話いただきました。困った行動についての理解と支援の手順を明快に話して下さい、具体事例についても助言いただきました。応用行動分析がよくわかりましたという感想が寄せられていました。



第3分科会



第4分科会

第4分科会は、「個別の教育支援計画の作成と展開」について、大阪府立岸和田養護学校教頭の小塚敏憲先生の講演で、子どもたちの「個別の教育支援計画」作成の実際と具体的な展開についてお話いただきました。「個別の教育支援計画」の作成についてはとても良く分かりありがとうございましたという感想が寄せられていました。この講演内容以外に特別支援教育の具体的な進め方の研修の要望が多数寄せられました。

第5分科会は、「てんかんを持つ子どもたちへの支援とケア」について、大阪教育大学附属養護学校の坂下茂先生の講演で、てんかんを持つ子どもたちの理解と具体的な支援の方法についてお話いただきました。各自の疑問点を出し合って一問一答形式で答えてもらえ良かったという感想が寄せられていました。



第5分科会



第6分科会

第6分科会は、「性に関する課題のある子どもたちの理解と対応」について、大阪知的障害者育成会地域支援担当の中村昭代先生と、日本自閉症協会近畿ブロック代表理事の大橋一予先生の講演で、発達に障害のある子どもたちが、思春期を迎えるにあたっての性の問題の理解と実際の指導についてお話いただきました。いろいろな学校の先生方の悩みも聞いてよかったという感想が寄せられていました。

どの分科会も質疑応答まで熱心な対話が行われ、とても有意義な研修会となりました。

夏の教材制作実技講習会の報告

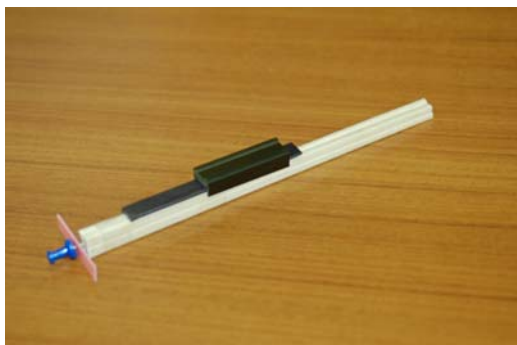
平成18年8月24日(水) 10時～16時 於 アピオ大阪 研修部



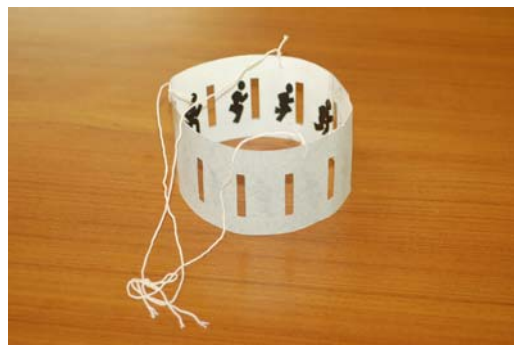
今年も約90名が参加し、「象の会」の3名の先生をお迎えしての実技講習会が開かれました。講師の内藤壽先生は養護学校にお勤めです。松永榮一先生は就学前施設にお勤めです。朝井翔二先生は養護学校を退職されわざわざ北海道からこの講習会のために来て下さいました。一人ひとりの子どもに応じたいろいろな教材を作っておられ、「おもちゃがいっぱい」などたくさんのもも出されています。また、手作り布おもちゃで活躍するグループ「さざんか」の5名の方々も講師をしてくださいました。今回も、養護学校や、養護学級の先生方の希望も取り入れ、たのしくて役に立つ教材を教えてくださいました。

午前の部は、「教材作成のあれこれー支援やもの作りの意味」という題で、内藤先生が講演をしてくださいました。午後の部は、参加者の希望に合わせての教材づくりです。今年の教材は、2種類希望される方が多く、「簡単くすだま」が人気作品です。このくすだまは、紙テープが舞い落ちてくるもので、長く続くので演出効果抜群です。手を差し込む部分に工夫がされた「ブラックボックス」、短時間でできるように下縫いをしていただいた「鬼のマント」、マイクに向かって声を出すと自動車が動く「おーい」、など参加された方々は皆夢中になって教材を作っておられました。

「象の会」の先生方や、「さざんか」の方々、たいへんなご準備ありがとうございました。有意義な時間を過ごせました。／子どもが楽しむ前に大人が感動を受けました。／毎年この日を楽しみにしてきています。／自分も頭をやわらかくして工夫しようと思いました。／クラスの子どもたちも喜んで使っています。／等の感想が寄せられました。また来年に向けての希望もたくさん出していただいています。本当に講師の先生方ありがとうございました。



木にガタガタをつけて、プロペラがまわるおもちゃがありますが、これは、加工が大変なガタガタのかわりに磁石を使ったアイデア品です。



アニメーションの原理を使ったおもちゃです。実際に作ると感動物です。応用もできそうですね。



奥に控えし、エプロン軍団は手作り布おもちゃ制作グループ「さざんか」の方々です。「鬼のエプロン」でお世話になりました。



さかなをパクパクのペリカン君、洗濯ばさみの足のとんとう虫、イカ、カニなど手の自立活動が楽しくできる秀作ですね。



ごみ箱の中にでもありそうな材料。これが帽子に付けて、風で回るプロペラになります。とてもよく回りました。

<http://www15.ocn.ne.jp/~zounokai/>
象の会ホームページをご覧ください。



毎年、楽しみにして参加を続けてくださっているファンの方もおられます。